

●俳句サロン

俳句サロン 令和七年

「春」



木の芽ふく坂の先には城址あり
春愁や一錠ふえし飲み薬

雅俊
晴代

「夏」



紫陽花に傘をさしかけ見る幼児
バス遅し^{ひとつばたい}なんじやもんじやの花の下

雅俊
晴代

手の中に草の香残し螢舞ふ
国宝展慈愛の笑みや古都薄暑

雅俊
晴代